

## 防災訓練（要素訓練）結果報告の概要

### 1. 訓練の目的

本要素訓練は、全交流電源喪失時の各対応手順書に従った操作訓練を繰り返し行うことにより、全交流電源喪失時の対応者の習熟を目的としている。

### 2. 実施日および対象施設

#### (1) 実施日

2016年2月20日 ～ 2016年9月11日

詳細は、「添付資料」のとおり。

#### (2) 対象施設

再処理施設

### 3. 実施体制、評価体制および参加人数

#### (1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を定め、実施担当者が訓練を行う。

詳細は、「添付資料」のとおり。

#### (2) 評価体制

定められた手順書どおりに訓練が実施されたかを実施責任者が評価する。

#### (3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

### 4. 原子力災害想定の概要

再処理施設の全交流電源の喪失並びにそれに伴う高レベル濃縮廃液貯槽等の冷却機能および水素掃気機能の喪失等を想定する。

### 5. 防災訓練の項目

要素訓練

### 6. 訓練の内容

その他必要と認める訓練

## 7. 要素訓練の実施結果の概要（添付資料参照）

その他必要と認める訓練

### ①電源車対応訓練

- ・地震等により全交流電源が喪失した場合を想定し、電源車の出動および起動、電源車から電源を供給するためのケーブルの敷設および接続等の実動訓練を実施。

### ②水素掃気用コンプレッサ対応訓練

- ・水素掃気機能が喪失した場合を想定し、エンジン付き空気コンプレッサの起動、エンジン付き空気コンプレッサから水素掃気用の空気を供給するためのホースを敷設する等の実動訓練を実施。

### ③通信設備用発電機対応訓練

- ・地震等により全交流電源が喪失した場合を想定し、通信設備用発電機の起動、通信設備用発電機から電源を供給するためのケーブルの敷設および接続する等の実動訓練を実施。

### ④冷却コイルへの直接注水

- ・安全冷却水系の機能が喪失した場合を想定し、分離建屋、精製建屋、高レベル廃液ガラス固化建屋の安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを建屋内に敷設する等の実動訓練を実施。

## 8. 訓練評価

各要素訓練について定められた手順どおりに訓練が実施され、対応者の習熟を図れた。

訓練ごとの評価結果および今後に向けた改善点は添付資料のとおり。

以 上

〈添付資料〉

要素訓練の概要

## 要素訓練の概要

○ 全交流電源喪失対応訓練（訓練実施日：2016年2月20日～2016年9月11日（訓練を繰り返し実施（当該期間内で合計91回、参加人数は延べ1148名。）

訓練項目	実施体制 ①実施責任者、②実施担当者	実施結果	今後に向けた改善点
<b>電源車対応訓練（※）</b> 全交流電源が喪失した場合を想定し、電源車の出動および起動、電源車から電源を供給するためのケーブル敷設等の実動訓練を実施。	①統括当直または当直長他 ②当直員 554名 (訓練実施数：43回)	手順書に従って、要員の現場配置、電源車の出動、起動、ケーブル敷設および接続作業等が迅速に実施できていることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
<b>水素掃気用コンプレッサ対応訓練（※）</b> 水素掃気機能の喪失を想定し、エンジン付き空気コンプレッサの起動およびホース敷設等の実動訓練を実施。	①統括当直または当直長他 ②当直員 335名 (訓練実施数：22回)	手順書に従って、要員の現場配置、コンプレッサのホースの敷設、起動/停止および接続作業等が迅速に実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
<b>通信設備用発電機対応訓練（※）</b> 全交流電源が喪失した場合を想定し、通信設備用発電機の起動および電源を供給するためのケーブル敷設等の実動訓練を実施。	①統括当直または当直長他 ②当直員 188名 (訓練実施数：14回)	手順書に従って、要員の現場配置、発電機の起動/停止、ケーブル敷設、接続作業等が迅速に実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
<b>冷却コイルへの直接注水訓練</b> 安全冷却水系の機能が喪失した場合を想定し、分離建屋の安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを分離建屋内に敷設する等の実動訓練を実施。	①分離課長 ②分離課員 15名 (訓練実施数：2回)	手順書に従って、現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が迅速に対応できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
<b>冷却コイルへの直接注水訓練</b> 安全冷却水系の機能が喪失した場合を想定し、精製建屋の安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを精製建屋内に敷設する等の実動訓練を実施。	①精製課長 ②精製課員 6名 (訓練実施数：1回)	手順書に従って、要員の現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が迅速に実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。

(※)：複数の要素訓練を同時に実施することもある。

訓練項目	実施体制 (②実施責任者、②実施担当者)	実施結果	今後に向けた改善点
<b>水素掃気用コンプレッサ対応訓練</b> 水素掃気機能の喪失を想定し、エンジン付き空気コンプレッサの起動およびホース敷設等の実動訓練を実施。	①脱硝課長 ②脱硝課員 4名 (訓練実施数：1回)	手順書に従って、現場配置、水素掃気用ホース敷設、接続作業等が迅速に対応できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
<b>冷却コイルへの直接注水訓練</b> 安全冷却水系の機能が喪失した場合を想定し、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースをウラン・プルトニウム混合脱硝建屋内に敷設する等の実動訓練を実施。	①脱硝課長 ②脱硝課員 6名 (訓練実施数：1回)	手順書に従って、現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が迅速に実施できることを確認した。	作業安全の向上に努めるとともに、必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
<b>水素掃気用コンプレッサ対応訓練</b> 水素掃気機能の喪失および高レベル廃液がセル内に漏えいした場合を想定し、高レベル廃液ガラス固化建屋内のセルへのホース敷設の実動訓練を実施。	①ガラス固化課長 ②ガラス固化課員 4名 (訓練実施数：1回)	手順書に従って、現場配置、水素掃気用ホース敷設、接続作業等が迅速に対応できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
<b>冷却コイルへの直接注水訓練</b> 安全冷却水系の機能が喪失した場合を想定し、高レベル廃液ガラス固化建屋の安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを高レベル廃液ガラス固化建屋内に敷設する等の実動訓練を実施。	①ガラス固化課長 ②ガラス固化課員および当直員 36名 (訓練実施数：6回)	手順書に従って、要員の現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が迅速に実施できることを確認した。膨張槽の液位確認について、防護装備を着装した状態での現場確認訓練を実施した。	防護装備（呼吸器）のボンベ消費量の多い要員は更なる習熟を行うことで消費量の軽減と習熟向上に努める。